

一期一家 03

浅川建工

荻原美穂/文 text: Miho Ogihara
内田憲二/撮影 photograph: Kenji Uchida

木の優しさに包まれて、 木の強さに守られて…



ログハウスの快適さと、
テクノロジが見事に融合した
理想の住まい

「私たちは木が好きで、本当はログハウスに住みたいと思っていました。それで、いくつかモデルハウスも見せていただいたんですよ」とおっしゃるA様ご夫妻。ログハウスは確かにステキだ。しかし、日常を過ごす住まいとしての機能性には疑問があったし、将来的には必要とされるメンテナンスが重荷になるんじゃないかという不安もあった。「浅川さんに率直にご相談したところ、『だったら、ログハウスのような住まいを作りましょうよ！』っておっしゃって下さって。この一言から、A様の家づくりが始まった。

腰板、床、天井と、一面を彩る艶やかな天然木、美しい梁、屋根勾配を利用した趣のある2階の個室、そして、リビングの一角には薪ストーブと、ログハウスのエッセンスを多分に取り入れた、ナチュラル

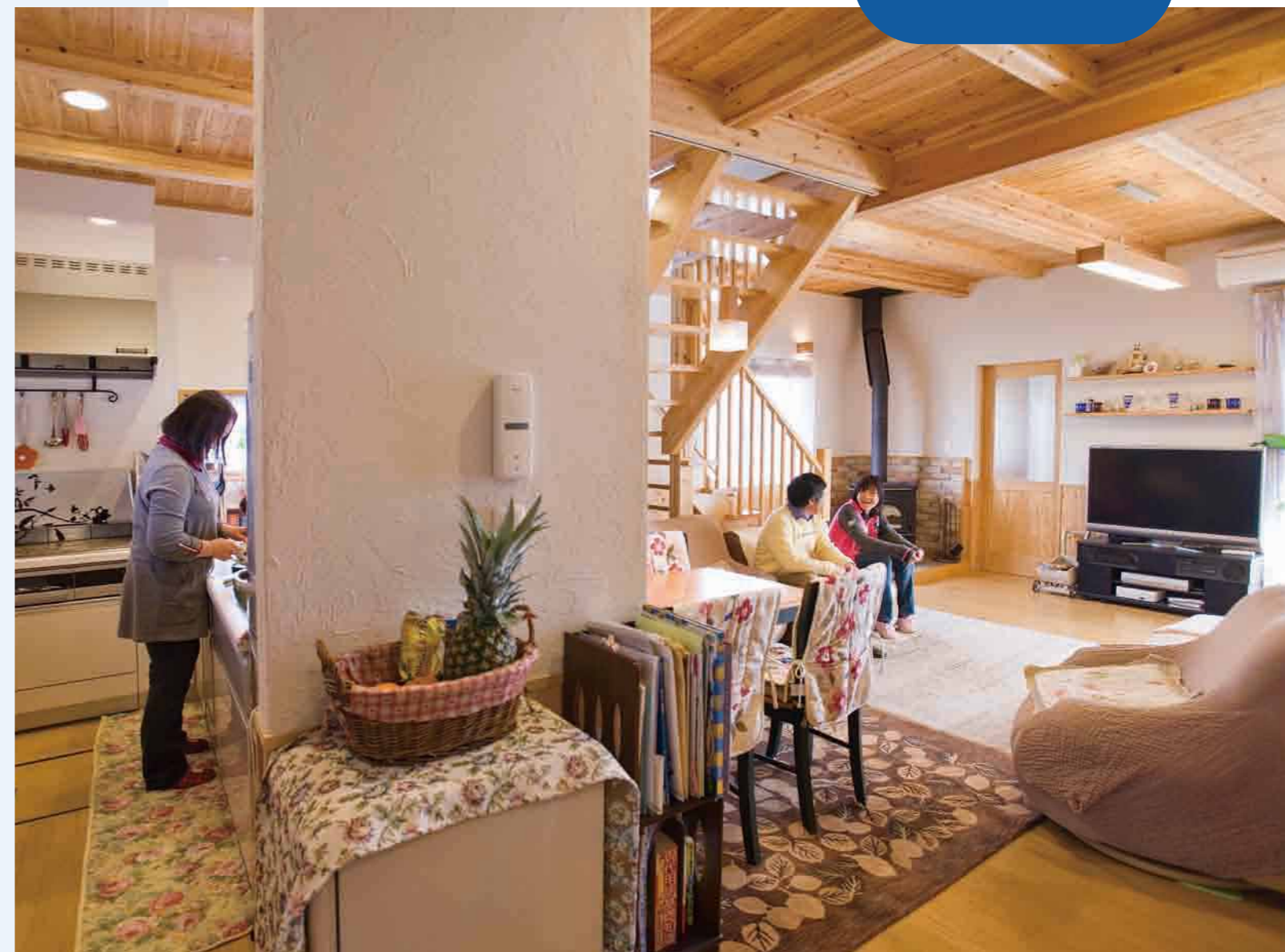


お嬢さんと2人並んでも余裕のキッチン。収納もたっぷり、使い勝手抜群。

『休まる』の本当の意味を、
生まれて初めて知りました。

で快適なA様邸。水回りはエコキュートとオール電化にし、南向きに大きく勾配した屋根に太陽光発電パネルを配した。さらには、家の骨組みには金物工法を用いたり、壁の中には耐震装置を施したりと、最新のテクノロジも導入した、安全で安心な住まいとなっている。

「二重サッシで気密性が高いこともあって、暖かいのですが、薪ストーブ一つで家中が暖かさが持続するんです。通勤に2時間以上かかるため毎朝6時前には家を出るのですが、この家に来てからは、真冬の早朝でも、寒さや冷たさを感じることはありませんね」とご主人。居心地が良いためか、気がつくとリビングに集まってくるそう、お嬢さんのピアノを聞いたり、家族でゲームを楽しんだりする時間も増えたという。



リビングの一角に設えられた薪ストーブ。おでんやシチューをコトコト煮込んだり、薪の中にお芋を入れて焼き芋を楽しんだり…冬ならではの楽しみが、暮らしに彩りを添える。

天然の素材に囲まれていると、
体の疲れが癒されて、心まで優しくなるみたい。
ほら、不思議と気持ちが華やいで、気づくと笑顔がこぼれている。
外出するより、家に居たい。遊びに行くより、友達を呼びたい。
だって、家が一番だもん！



地震に強い、ウインウッド工法
+ 制震装置。



広々としていて落ち着くトイレ。
オリジナルのオシャレな手洗器、
淡いグリーン色の壁も、いい感じ♪

家中に満ちた、きれいな空気。
ときおりカーテンを揺らしながら通り抜けていく風。
きもちいい…
身を置いているだけで、
心が、身体が、癒されていく。

「私は、この家になると、心も体も落ち着くし、寛げる。『休まる』っていうのは、こういうことを言うんだと初めて知りました」と奥様。心や体に余裕ができたことで、もともと好きだった料理もより楽しめるようになったそうで、今年の冬は薪ストーブの上でコトコト大豆を煮、生まれて初めて味噌作りにも挑戦したという。「以前は、休日といえば、日帰り温泉や映画、ショッピングなどに出かけたものですが、今は家にいるのが一番。ここで、パンを焼いたり、お料理をしたりしながら過ごすのが、何より楽しいんです」。理想の住まいで心豊かな暮らしを楽しむA様ご一家。満ち足りた笑顔が印象的だった。

四方を天然木に囲まれてまるで山小屋のようなゲストルーム

かわいらしいお嬢さんの部屋は、壁の珪藻土も淡いピンクに。ベッドから天窓を通して、星座を眺めることもできる。矢崎家具さんのカーテンをセレクト。

二方向の窓から日差しが差し込み、柔らかな風が吹き抜ける主寝室。屋根勾配を利用した高い天井には、美しい梁が姿を見せる。



一方「この家は夏も快適なんですよ」と教えてくれたのは奥様。木と珪藻土の調湿機能のおかげで、真夏でも室内の空気はサラッとしたまま。外出先から帰宅しても、ムツとした感じがまったくしない。まるで、木陰にいるような気持ち良さ。「この家に来て2度、夏を経験しましたが、エアコンを使ったのは数えるほど。光熱費の面でも、相当助かっています」とご主人も笑顔を見せる。

「浅川さんは、私たちの細かい要